

令和 7 年度 第 1 回宮崎県観光審議会議事録

【議事】

＜副会長選任＞

委員の改選により副会長が不在となったため、委員の互選により後口委員を副会長に選任。

【報告】

＜本県の観光振興施策の令和 6 年度取組実績及び令和 7 年度取組＞

＜宮崎県観光振興計画の目標値の進捗状況＞

＜次期観光振興計画の改訂スケジュール＞

資料 1－1～資料 3 により、事務局から説明。

（委員）

- 「スポーツランドみやざき」の全県化について、最終的にはどのような状態を目指しているのか。

（スポーツランド推進課長）

- 各市町村において施設や合宿所の整備が進んでいるところ。
市町村を含む誘致部会を各競技団体が設置しており、現在 26 市町村のうち 21 市町村で合宿を受け入れているが、全市町村で受け入れられるように取組を進めていきたい。

（委員）

- アマチュアスポーツの合宿は予算が限られており、プロチームと比較して観光の面でどれだけの経済効果があるか疑問である。
今後進める上では、目標の設定やプロチームに絞ることも含めて考えてほしい。

（委員）

- 山之口に拠点施設（陸上競技場）ができたが、合宿のための宿泊施設の課題が生じている。
プロチームの合宿であれば、ある程度宿泊施設から距離があってもバスなどで移動ができるが、アマチュア合宿の場合は、宿泊施設と合宿地が近い必要がある。
全市町村で合宿を受け入れるにはアマチュアの受入れも進める必要があるが、アマチュアは予算が限られているので、宿泊施設や移動手段についても自治体と連携して進めていくことが重要である。また、来られた方に観光地を周遊してもらう仕組みも考えていきたい。

(委員)

- 武道ツーリズムにおいても移動の問題を抱えている。
バスや電車の本数が限られているため、レンタカーでの移動が主流となっており、どういう風に改善していくかと担当課と検討を進めている。
- TICAD（アフリカ開発会議）が今年関東で開催される予定があり、関連イベントとして剣道のイベントが開催される。今後、アフリカの方たちが宮崎に来てくださるよう努力したいと考えているので、協力をお願いしたい。

(委員)

- プロとアマチュアのバランスの問題で、施設、交通の課題もあるが、合宿の目的を考えたときに、近くに強豪校がないといけない。強豪校を求めて他県に出て行ってしまうので、それをどう宮崎にもってくるか。そうした整備も必要である。
国スポ・障スポが2年後にあるが、県民の理解・協力がないと成功しない。また、それが継続していくことがスポーツランドでありスポーツの聖地であると考えている。

(委員)

- 合宿に当たって、宿泊施設に対して食や宿泊環境に関する要望が多くなっており、対応できなければ他の県に行ってしまうなど、現場は苦しい状況である。
今後、食、農業、観光、スポーツをどう結びつけて経済波及に繋げていくか。アマチュアの合宿ではお土産は売れず、飲料も持ち込まれるため売れない。1泊3食付きで500円上げるのが精一杯で、料金引上げが宿泊環境の向上に追いついていないという意見も受けている。

(委員)

- 国スポを見据えたときに、国スポと観光がどう繋がっていくのか見えない。
プレイヤーとして行く時に、予算もスケジュールも決まっており、観光をして帰ろうとはならない。国スポで来たときに人と人とのつながりを持って、その後の観光に繋がっていくのかなと思う。

(委員)

- 県内のゴルフの状況として、年間100万人を超える利用者がおり、うち県外から約25%。ゴルフは滞在型・連泊型で、1週間くらい滞在していただけるため、観光消費に繋がる。
- 2023年度にAGTC（アジアゴルフツーリズムコンベンション）を宮崎で開催したが、海外のゴルフ客に来てもらえるよう、それ以降も継続的に参加している。

その中で、海外向けのワンストップ窓口を設置しており、ホテル、ゴルフ場、バス、観光など一元的に手配している。昨年度はインドネシアから90名を迎えることができたインバウンドの受け入れに取り組んでいきたい。

- MICE に関しても、アフターコンベンションでゴルフの誘致もできる。観光と一緒にゴルフツーリズムを進めていきたい。

(委員)

- ゴルフツーリズムについては、宮崎ならではのものを楽しんでもらうため、今年度から各社の食事・宿泊などのプランを同じものにまとめている。

セールスに行くと首都圏のツーリズムに比べ、宮崎は単価が安く、その金額で楽しめるのか心配の声をいただく。単価を上げながら、満足度が高い商品の販売に注力していく。

- 新富を中心に青少年のサッカーの受入れが増えているが、宿舍が足りない。長野県菅平では多くのグラウンドがあり、合宿が集中しているのでいろいろな対戦ができる。宿舍が課題だが、そうした受入れの仕組みづくりができるとよい。
- 観光市場が拡大しているが、宮崎には引っ張れておらず、万博の影響もあり春からGWにかけてその他の旅行が減少している。韓国も若者を中心に失業率が上がっており、旅行商品が売れない。宮崎は国際線が限られており、料金が高いため、手軽に行ける首都圏が選ばれている。
- 各地域で旅行商品が造成されているが、いかに販売を継続するかが課題。県観光協会とも協議しながらそのような形がよいか考えていきたい。

(委員)

- 台湾からのスポーツ交流も受け入れているが、対戦相手の確保は同様に課題である。また、西都では合宿所が足りないので、グリーンツーリズムを活用し、日本の文化を体験していただいている。グリーンツーリズムは西都市から補助金を出しているが、限りがあり、受入れを調整している状況。

- 教育旅行は交流内容が重要で、県教育委員会の協力もあって充実してきているが、西都市だけでは限界がある。県全体での制度を考えていただきたい。

(委員)

- ゴルフ目的のインバウンドでも、ゴルフをしないご家族は観光されるところから、ゴルフでの誘客は県全体への波及効果が見込まれる。

- 熊本空港が上海からの定期便が週3便になり、東アジアからのインバウンドが期待できる。熊本～高千穂から宮崎への流れをどうにか作りたいと考えている。

旅程を組んで来られる方が多いので、難しい部分はあるが、連泊の方には県内の観光地を紹介しているところ。

- サイクリングに関しては、毎年カナダの旅行会社がツアーを組んでアメリカ人を連れてこられる。さらに宮崎の魅力を伝えていきたい。

(委員)

- 万博や予言の影響により、4～6月の宮崎市の宿泊は苦戦した。
昨年度の下期から兆候としてはあったが、宮崎の宿泊施設の単価は下がってきている。安いのではなく、下げざるを得ない状況。
単価を上げるためにハード面・ソフト面でやるべきことをやってきたが、価格と需要が合致していない状況。今月や来月を見据えて下げるという戦略をとっているが、数年後も見据えて取り組んで行く必要がある
- 観光振興計画を見ていただくと、様々な事業が実施されているが、知らない情報もあり、我々としてもどういう補助金を提案して、活用しないといけないのかを改めて考えていく必要がある。

(委員)

- 街と観光の点で、一番街で現在力を入れているのは横断幕・フラッグの設置で「ひなたフェス」や映画「かくかくしかじか」でも設置し、観光客のおもてなしに繋がるものと感じている。
駅前の商店街から一番街までは、横断幕・フラッグを掲げることが可能であり、イベントや観光案内で有効活用でき、コンテンツとして面白いのではと考えている。
- 若年層の多くが見ているメディアはSNSであり、インフルエンサーが発信する観光地や食の情報に関する発信力に注目するべきであると考え。一方で、年齢層は高いが、テレビを見る層も少なくはなく、若年層や高齢層、個人旅行の外国人など、それぞれに向けた幅広い発信の方法が求められている。
- 次期計画については、より絞り込んだ具体的な目指す姿を描くのが良いと考えている。

(委員)

- 九州各県の方々からは、宮崎の結びつきを強めていきたいと聞いている。

九州内や熊本に居住する外国人と家族、親戚の旅行先として、宮崎は魅力的なようであるが、二次交通が課題である。旅行ルート化し、最終目的地を宮崎にしてもらうなど柔軟に考えていくのもよいと考える。

(委員)

○ インバウンドに来てほしいというが、逆に宮崎からどれだけ行っているか。

国際線の乗り場には宮崎のお土産があまり置いていない。インバウンドを増やすには、宮崎からのアウトバウンドを増やすことも重要ではないか。

(委員)

○ インバウンド客からは、高いホテルに泊まりたいという要望を受けるなど、経済の二極化を感じており、受入れ側も二極化して準備しなければならないと感じている。

○ 海外から、ボーディングスクールの受入れができないか相談を受けている。全寮制で学校に通わせることであるが、良い質で安全で連携が取れる大学が求められている。今後新規市場の開拓のきっかけとなるのでは。